

公園・遊園地における起因物なしを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

| 2017年発生月 | 時間 | 死傷災害発生事例 | 年齢 | 労働者規模 |
|----------|-------|--|----|---------|
| 5 | 13～14 | <p>バイキングスタイル・レストランにて食べ終えた食器を下げる業務中、手首に痛みを感じるようになったが、スタッフの不足もあり通常勤務より長い時間就労していた。その後、左手に痺れが発症し、重たい物は持たないように気をつけていたが、退職者の発生により勤務頻度が増し、左手親指付け根辺りが痺れ、床に手を着く・洗髪・手首を捻る・重い物を吊る等の動作ができなくなった。</p> | 55 | 500～999 |
| 7 | 10～11 | <p>店舗地下倉庫にあるペットボトル飲料を店舗へ運ぶため、空の台車（二段仕様）を運び、冷えたペットボトルドリンクを冷蔵庫から出し、空の段ボールに詰め、台車にのせる作業で、段ボール（約12kg）を上段から下段へ移動させた際、腰に痛みが発生した。その際、膝は曲げていたが、頭を台車にぶつけないよう、腕のみで移動させていた。その後はレジ業務だったため、多少の違和感はあるものの勤務を継続したが、後日に痛みが再発した。</p> | 32 | 10000～ |
| 7 | 16～17 | <p>勤務終了後、くしゃみをした際に、入社当時から痛めていた腰にピキッと痛みがはしった。今までも同様な痛みを感じたこともあったため、そのまま帰宅した。本人の申告によると、全身に総重量10.5kgの衣装を装着して挨拶する業務に計2回出演した中で、子どもと接するために腰を屈めた際に腰の痛みが悪化した。私物の腰サポーターを使用して最後まで出演したとのことである。なお、当日は、以前より腰への蓄積疲労からくる痛みが気になっていたが、日頃から自身でのケアを行っており、勤務を続けていた。出勤時に、日頃と同レベルの痛みであると申告しており、コンディショニングルームの予約が取れなかったが、痛みが増している感覚がなかったため、そのまま最後まで勤務した。</p> | 24 | 10000～ |
| | | <p>全身に衣装を装着し、レストラン内でゲストと触れ合う業務6回中の4回目で、「左足を軸に右足を左足に添えるポーズ」をとった際、腰の左側から左足にかけ、強い</p> | | |

| | | | | |
|---|---------------|--|---------|-------------------|
| 7 | 16 ～ 17 | 痛みが発生した。発生後は、動きを軽減し最後まで出演した。楽屋に戻ったとき、歩行も困難な状態であったため、タクシーにて早退した。なお、発生時のポーズは頻繁に行う動きであり、発生時も通常通りに行った。入社前に白蓋骨形成不全と診断されたことはあるが、入社後に痛み・違和感はなかったため、通院はない。 | 24 ～ | 10000 ～ |
| 9 | 12 ～ 13 | 全身に衣装を装着しての挨拶業務の前に、衣装を着た状態で、シューズを履こうと、椅子に座った状態で前屈みになろうとした際、前屈みになれないほどの腰の痛みを自覚、前日のオーディションの疲れだろうと考え、動きの軽減は行わずそのまま勤務を継続。出演後、下半身が重たくなるような感覚があったが、そのまま帰宅、その後も、腰の痛みは継続してあったが、様子を見ながら出演、腰の痛みと併せて、右足の痺れのようなものを自覚。コンディショニングルームを利用し様子を見ていたが、腰の痛み、右足の痺れが強くなり、社内救護所を受診し、外部病院を受診した。（発生当日の挨拶業務で小さい子供が多く腰を屈める動きが多かったことが要因と考える。） | 32 ～ | 10000 ～ |
| 9 | 16 ～ 17 | ゲスト撮影写真販売スポットにおいて、従来は3枚とも立ったまま写真撮影していたが、職場上司から3枚の写真を異なる四角のものにするとゲストに喜んでもらえるから1枚はしゃがんで撮るように指示を受け、1枚をしゃがんで撮影するようにした、次から次へとテンポよく撮影し、右足だけでスクワットをしているような状態となり、右足に負担がかかり右足内腿に激しい痛み（棒で殴られたような痛み）が発生し受傷した。 | 20 ～ | 1000 ～ 9999 |

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html